

令和4年度すくすく泉事業計画書（案）

1 運営理念等

【運営理念】

- 「保育」、「ひろば」を2本柱として、地域の子どもたちが地域の人々に愛されて育つ場をつくります。
- 樹木に囲まれた自然空間や泉文庫の豊富な絵本等の蔵書を活かして子どもの感性を育み、そこで過ごす子どもにとって、楽しく豊かな原風景となる場をつくります。
- 地域の中の多世代の交流を大切に、子育てを通してみんなが豊かな時を過ごす場をつくります。
- 子育ての不安感、負担感、孤立感を軽減し、相談しやすく、様々な子育て情報を得られる場をつくりま

【令和4年度に力を入れて取り組みたいこと】

【ひろば・一時預かり】

- ・コロナ禍が長く続き、閉じこもり育児による知識不足や勘違い、悩み、ストレスも増えてきている。他の親子と触れ合う機会が減ったことで、発達の遅れに気づかない場合や、育児不安を抱え込む場合もある。できるだけ安心して気軽に立ち寄れるハードルの低いひろばを継続し、利用のきっかけづくりのためのプログラム企画やSNSを利用した情報発信もしていく。
- ・包括支援の一役を担う施設として、他施設、他機関との連携を深めていく。
- ・父親の育児参加を自然に促すためのサポートプログラムを実施する。
- ・日常のひろばに発達をテーマにしたプログラムを加える。
- ・地域防災の意識を高める取り組みをする。
- ・一時預かりについては、引き続き、親子が安心して利用できるように研修を重ね、スタッフの質向上を目指す。また、預かりを通して知り得た親子の状況をについては、適切に情報共有し対応する。
- ・「はじめてのひろば」の利用をきっかけに、市内のひろば利用への第一歩を踏み出しやすくする。

【小規模保育事業】

- ・令和4年度4月より、常勤保育士3名と非常勤保育士で体制を作りA型へ移行し安定した運営をする。
- ・早朝保育士の獲得、非常勤スタッフの保育士の資格取得をすすめていく。
- ・新規採用者も入ったチームとして、日々の保育の中で感じたことや迷ったことなどを伝え合い、子どもの読み取り、かわり、チームとしての動きなどを出し合える場を作って、保育の理念の共有をはかる。特に子どもの気持ちに寄り添った保育の実現のためにも『見守る』ということについては継続して事例を重ねていきたい。
- ・自然の中での遊びについて継続して事例を重ねながら、環境の充実をはかる。
- ・アドバイザーの毎月の視察や会議、テーマをもった園内研修、またオンラインを活用してキャリアアッ

プの研修や市主催の全体研修など外部に自ら学びに行く機会を作っていく。

- ・子どもとのかかわりに悩む保護者が多いので、保護者の気持ちに寄り添いながら、成長の過程や今後の見通しが持てるようにし、日々のかかわりについて一緒に考えながら子育てを支えていく。おたより、おうち文庫の他に掲示の充実でタイムリーな子どもの姿やその意味などについても知らせていきたい。
- ・保育とひろばが一体となった施設ならではの子育て支援を工夫しながら進めていく。例えば、低月齢児や妊婦対象の保育園体験、乳幼児とのふれあい体験などにより早期のひろば利用につなげていく。特に離乳食は悩む親が多いので、園の離乳食をみせたり園児が食べている様子を見せながら不安解消に貢献する。
- ・防災計画を見直し、時間の推移や具体的な想定を考えた備蓄などの対策を練る。

【中長期目標】

●3 事業の連携で質を高める

小規模保育事業、一時預かり事業、地域子育て支援拠点事業がそれぞれ質の高い事業を展開すると共に、各事業の特色や良さを相互に活かして連携することで、更に利用者のニーズにあった内容を提供できるようにする。また、防災・防犯に関しては、3事業が利用者の命を守るために連携協力していく体制づくりを引き続き進めていく。

●多様な子育てに対応できる施設にする

一人親、ステップ家族、主夫、祖父母育児、外国籍、精神疾患、アレルギー疾患を有する子どもや障がい児など特別な配慮を必要とする子どもなど、様々な家族の形や子育てがある。父親の育児参加、父親同士のコミュニケーションへのアプローチも含め、子どもへの支援や保護者への配慮など、それぞれのニーズに寄り添えるようにしていきたい。

●切れ目のない支援の一翼を担う

妊婦さんへのアプローチから始まり、乳幼児期にかかわった子どもたちが小・中学生になり、やがて自分たちが子どもを育てる側になっていく、その過程にずっと地域に存在し見守るセーフティーネット、言うなれば“実家”のような場所になることをイメージしている。

●地域全体で子育てするための連携

今までにつながってきた地域の様々な人的資源を大事にしながら、更に地域との連携を深める。

●育児参加促進

父親にも、母親同様のひろば機能を提供するために、子育ての知識を得る機会、地域コミュニケーションの機会、楽しい親子プログラム、敷居の低い相談の機会などをつくり、父親も自然に参加しやすいしくみをつくる。

●支援者同士の連携

近隣の子育てひろばや保育施設との連携に始まり、専門機関や行政との連携も含め、親子を真ん中にした支援者同士の連携を更に進める。

●運営体制の安定化と次世代へのつなぎ

支援を途切れさせないためには、立ち上げの勢いだけではなく、さらに長いスパンで安定的に運営していくことを目標に置くことが不可欠である。そのために、現スタッフの理念を引き継ぐ次世代スタッフの確保と育成を進める。

●感染症の影響に対応する

新型コロナウイルス感染症により、誰もが生活スタイルの変化を余儀なくされた。その中で、安心、安全な日常を過ごせる場を可能な限り継続していく。また、コロナ禍の子育てにうまれた新たな問題、不安、ストレスなどに対しての支援を模索し、可能なことから実行していく。

2 事業内容

NO	項 目	内 容
1	小規模保育事業について	<p>保育所保育指針に基づき作成した園独自の『全体的な計画』を土台として、0～2歳児10人という少人数の良さを活かした保育を充実させたい。その際、人権の尊重、個人情報保護、説明責任、苦情解決に真摯に取り組み、「ひろば」との連携による子育て支援、職員の質の向上に努める。</p> <p>基本理念・基本方針</p> <p>～一人ひとりの健やかな成長発達に寄り添う保育～</p> <ul style="list-style-type: none"> ●一人ひとりの子どもを愛し、尊重します。 子どもが最善の利益とその権利を尊重され、心身ともに健康で、未来をつくり出す力の基礎が育つよう、チームワークを活かして保育します。 ●乳幼児期を豊かにするために家庭と連携します。 人間性の土台が育つ大事な時期としての認識や子育ての喜びを共有し、今を豊かにするために保育士と保護者が連携していきます。 ●地域から生まれ、子どもを中心に地域がつながり、支えあう関係づくりをめざします。 地域の自然や様々な物的・人的資源、文化を保育に活かします。また、保育を通して多世代がつながりを深める拠点となり、地域全体の福祉や家庭支援に寄与していきます。 <ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりがありのままの自分を出せる安心感を土台に、発達に応じて様々に表現し、自分で決めることを大事にしたい。保育者は子どもの心の声をよく聞き取れるよう努める。そのためにも、否定語、禁止語、命令語を極力使わず、共感的、応答的にかかわる保育を更に深めていきたい。 <p>安定した保育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A型移行に伴い更に安定した保育体制をつくっていく。常勤保育士の担任3人を中心にし、様々なスタッフがかわる良さも活かす。また、効率的な運営のためのシステム作りをしていく。一時預かりも保育も担える人材を育て、すすく泉全体として更によいチームワークにする。 ・情報共有と保育の質の向上のため、日々の10分ミーティングや日誌の共有、ミーティングや個人案会議などの活用、年間を通したテーマを決めて、具体的な場面での子どもの読み取りや自分のかかわり方について、スタッフ同士で様々な意見を出し合って、保育の軸を共有していく。 ・専門性の向上では、内部研修と並行して、外部研修への参加も増やし、受講した内容をミーティング等で共有して様々な分野の最新の知識を学んでいきたい。 ・アドバイザーの先生による月1回の視察と「ひろば」と合同の現場会議を通して、子どもの成長について継続的に読みとりとかかわりを重ね、自分たちの保育についても見直してきた。更に、「ひろば」や「一時預かり」の様子も共有し家庭で保育する保護者の現状も視野に入れてすすく泉としてのスタンスを共有して、日々の保育につなげていく。

		<ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携において、これまでも日々の保護者との情報共有や成長を喜びあう関係づくりに努め、更に保護者同士のつながりを育めるようにする。情報発信として、おたよりや保護者むけの図書「おうち文庫」を充実させたい。 ・発達上の課題や家庭での保育の課題をかかえた子どもへの対応は、いろいろな機関や家庭との連携を密にとり、情報の取り扱いに注意しながら進めていく。 ・防災マニュアルを土台に、避難訓練と連動しながら、動きや物などの改善と共有をする。一時預かりも含めた子どもたちの命を守り安全に保護者に引き渡すための保育を継続するために、備蓄品等も見直す。 <p>特色ある保育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「一時預かり」や「ひろば」が併設された複合型の保育施設の特色を活かして、地域の親子や中高生、高齢者やボランティアという多世代との触れ合いの機会を増やして、保育の専門性を活かしながら、子育てをみんなで応援する地域づくりに貢献していきたい。今後広げていきたい活動は以下の4点である。 <ul style="list-style-type: none"> *元保育士による人形劇団の活躍や、利用者との交流ができるプログラム。 *赤ちゃんとのふれあい体験（プレママやその家族対象） *いずみの鳩時計などのミニイベントや日常を通した地域の親子とのかかわり *中学生の職場体験を受け入れ、多世代交流の中で、子どもへの理解を深めたり、母親と話すことで、育てること、自分が育てられたことなど振り返るなど、様々なことを感じ考える機会になるよう工夫をしていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・感覚が敏感なこの時期に五感を通して自然を楽しみ、不思議と出会う体験、命を知る経験をさせていきたい。また、歩行を確立する時期に全身を使っているような場所をたくさん歩き、体幹や足腰が強くなるようにしていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・近隣保育園との連携していく。まちの保育園吉祥寺、武蔵野赤十字保育園とは、コロナ禍の中にあっても、できることから連携していきたい。また、すすくく泉公園でも色々な園と一緒に遊ぶ機会を良さとして活かす工夫をしたい。 まちの保育園吉祥寺と精華第一保育園も含め3園による合同の研修会では、近隣の保育園も参加できる仕組みづくりをしながら、地域で子どもを育てていく関係づくりをしていきたい。 <p>※保育内容の詳細については、『全体的な計画』『年間計画』に記載予定</p>
2	一時預かり事業について	<p>「一時預かり」は、以下の3点を重要な骨子としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：命を守り無事にお返しする。 2：安心して保護者を待てるような子どもの心の安定。 3：安心して子どもと離れていられるような保護者からの信頼。 <p>今後も、ひろば内での一時預かりの特徴を生かし、相互に声掛けをしながら一体となり、支援を続けていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺には、不定期に短時間子どもを預かってもらえる人間関係がない、地方出身や核家族の親が多く存在する。 「すすくく泉」は、親の傷病、冠婚葬祭、第二子出産時、または精神的肉体的負担の解消のためにも、早朝～夜間、土曜日、宿泊を含め、安心して短時間から預けられる場として、通常、200人／年ほどの登録がある。 ・日頃から遊びに来ることができるひろばでのオープンな預かりであることが、

		<p>預ける親の大きな安心感につながっている。</p> <p>実際に預かりの様子を見たり、利用者の声が聞けたりすることが、利用への心理的ハードルを下げる。理由を問わない一時預かりは「何か深い事情がある」時も、「リフレッシュ」時も、同じように利用ができることで、親が負担感を増幅させ、虐待等につながってしまうことを未然に防ぐ役割を果たす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一時預かりの利用をベースに、親同士の預け合いにも発展し、大変そうなときに手を貸すことが自然の姿として見られるようになり、また、ひろばでは、自分の子以外の子どもと遊ぶ利用者の姿も普段の光景になった。 ・一時預かりに預けられている状況は、子どもが不安定になりやすい。スタッフは自身の子育て経験を活かし、母親のように寄り添うことを基本としている。他人の子どもを預かるという重大な責務を負うべく、情報交換、内部・外部の研修の受講などを大事にしている。 ・保護者にとってスタッフは、子育ての日常の一部を支える身近な存在であり、一緒に子どもの成長を喜んでくれる気負いのない相談相手となっている。スタッフのほとんどが地域の人であることは、彼女たちが発信源となり、子育てに関する地域の理解が高まるきっかけにもなっている。 ・保育士資格を取得するスタッフが増えている。有資格者が増えることで預かりの質の向上、保護者の信頼に繋がっています。 ・新型コロナ感染症の影響による人数制限・時短が続き、思うように予約が取にくい状況ではあるが、利用のニーズは継続しており、必要な支援であると考えている。人数制限以外に、事情により対応する緊急対応もある。
3	<p>地域子育て支援拠点事業について （「泉文庫」の管理・活用方法、公園を活用した展開等を含む）</p>	<p>日常のひろば</p> <p>傾聴と情報共有を軸にし、利用者それぞれの状況や悩みなどに、スタッフみんなで気を配り、言葉かけや働きかけを考える。「技術を持って空気感をつくる」を常に意識していく。</p> <p>また、おもちゃ、環境の工夫、わらべうたや手遊びの時間帯を設けたり、季節を感じられるよう日常に変化をもたせる。工作コーナーは、親子が一緒に作ることで、季節や行事を楽しむきっかけづくりをする。</p> <p>利用者に関わる中で必要に応じ各専門機関と繋ぐ。</p> <p>初めての親子も、スタッフとともに利用者みんなであたたかく迎え入れることを大切にしている。</p> <p>コロナ禍で安心、安全に過ごせる貴重な場を継続する目的を共有し、利用者を“お客様”にせず、この場を一緒につくる仲間として意見を聞き、取り入れ、時には協力してもらう。</p> <p>オンラインや公園側のデッキなどを活用し、コロナ禍でも、可能な限り、必要な講座や、楽しくホッとできる時間をつくっていく工夫をしたい。</p> <p>父親が気負いなく楽しく利用するきっかけづくりプログラムと、日常的に受け入れる場をつくるよう意識して迎え入れる</p> <p>プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期プログラム <ul style="list-style-type: none"> *手遊び（毎日・内容は月替わり）*わらべうた（週1回） *FuBoretch/ストレッチ（週2回）

＊読み聞かせ（月２回）＊ベビーマッサージ（月１回）
＊助産師による計測と相談（月１回）＊誕生会（月１回）
＊はじめてのひろば（月１回）＊保健師のいるひろば（月２回）

・不定期のプログラム(Zoom 併用)

＊コンサート ＊アートイベント ＊離乳食講座 ＊幼稚園ママの話を聞く会
＊保活の基礎知識 ＊発達に不安のある子たちのピアサポートの会 ＊パパ
の子育て応援講座 ＊親の癒しプログラム（アロマやストレッチなど）

・新しいプログラム

＊すくすくタイム／プレイデー&トークデー（週２回）
・発達を促す遊びの提案、相談会、相互理解
＊一緒にすくすく（月２回）
・父親、家族まるごと、育児参加促進プログラム

泉文庫

泉文庫は、日常のひろばや一時預かりが楽しむほか、月に２回の読み聞かせにも活用。赤ちゃんの興味を引くような絵本や、大型絵本も足しながら、絵本の世界を保護者も含めて一緒に楽しめる工夫を続ける。また、手軽に手に取れる保護者向けの本や外国籍の利用者のために外国語の絵本も内容を確認しながら加えていく。

子育て相談

日常の愚痴や小さな不安や悩みは、スタッフが即答するよりも、ひろばにいる他のスタッフや利用者を巻き込み、話題にしていけることも多い。必要であれば専門家につなぐなどのステップに進める。

個別の相談については、まずは聴き、信頼関係のもと、必要であれば専門家につなげる。

専門家に気軽に相談できる場としては内部保育士との連携はもちろん、「助産師による計測」や「保健師がいるひろば」「栄養士による離乳食講座」などのプログラム参加ができる。

情報コーナーの充実とともに、まずはスタッフが他施設や専門機関等と顔の見えるつながりをつくることにより、的確な手助けにつなげていきたい。

狭い施設なので相談室はないが、玄関やカフェコーナー、時には公園も活用し、その都度話しやすい場で自然に見えるように話を聴く。知り得た情報には、スタッフ全員が知る、ひろばスタッフだけが知る、コアスタッフだけが知る、とランク付けをしている。

利用者の活動

「ゆずっちょ」（譲ります、下さいの掲示版）はよく利用されている。不要になった子育てグッズを譲ったり、購入前に希望を出したりできる。直接ひろばで会って受け渡しをすることで、利用者同士の交流も生まれている。

「はじめてのひろば」をきっかけに、利用者同士の交流が生まれ、安心してひろばを利用でき、一緒に他施設に行ったりしている。

公園の活用

緑ボランティアとの連携により、貴重な自然環境を守り、子育てに活用していく。季節を感じ、のびのびと遊べる公園は、子どもたちの原風景となる。子どもたちが水やりをできるよう、小さいジョウロを置いた。季節によって

		<p>は花植え体験もできる。</p> <p>16 時に閉所後 16 時半まで公園用のおもちゃを使えるようにしている。「終わりだからさようなら」ではなく、一旦、公園遊びをする時間を作ることで、子どもたちが満足し、納得して帰っていけるよう工夫している。また、この時間帯は小学生がいたり、公園のみの利用者がいたりするので、交流が生まれている。</p> <p>こらばのコミセン親子ひろば</p> <p>中町集会所で月 2 回開催の親子ひろばに出張。すくすく泉のノウハウを活かして親子が安心して楽しく過ごせる場を展開している。「すくすく泉」の周知・利用にもつながり、逆に「すくすく泉」利用親子の行き場の選択肢を増やしている。コミセンを利用する活動を通して、地域の方、他団体との繋がりも深めることができる。（武蔵野市共助による子育てひろば事業）</p>
4	上記 3 事業の相互の関わり方や、その他について	<ul style="list-style-type: none"> ●3 事業のどれを利用しても、利用者に運営理念が伝わる一貫した対応をする。 ●スタッフが資質・課題解決力向上のために、学びや話し合いの機会を内・外にもつ。専門家による講座や連携園との研修会、ミーティングにおけるワークショップ等。また、外部有料研修に参加の場合の補助金制度を設けている。 ●3 事業は分離して運営されているものではなく、それぞれの専門性を軸にしながら交流の機会を持っている。それぞれの利用者に有益な支援を複合的に考え実行している。 ●常勤スタッフが必要に応じて運営会議をし、全体を考えながら 3 事業を進めていく。 ●日常的に 3 事業の利用者が公園を利用している。そこに近隣の保育園や小学校、また地域の方々も加わり幅広い多世代交流がうまれている。 ●3 事業、もしくは 2 事業が一緒に企画し準備して進めるプログラム。 ●3 事業のスタッフは、基本的には各事業に専従しているが、研修やミーティングへは、事業を越えての参加が可能である。お互いにいつでもサポートができるスタッフを増やすことで、何かあっても支え合える体制をつくっていく。 ●防災・防犯については 3 事業が連携した訓練を実施し、問題点の共有と対処方法を話し合うようにしている。

5	<p>地域参加・参画方法 (中高生や高齢者の事業参加や、地域ボランティアのイベント参加、地域住民が団体の会員となり保育を担う等)</p>	<p>この施設は、「子育てを中心に 地域みんなで 未来をつくる場所」であると考えている。</p> <p>「人格形成に特に大切な乳幼児期の子育てを、親だけに負担をかけるのではなく、親子を地域みんなで支えていく。そうして育つ子どもたち、安心して子育てをした親たちが、やがてこの地域の未来をつくる」との考え方のもと、様々なかたちで地域の力をとり入れていく。</p> <p>令和4年度も以下のような仕組みを予定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> * ボランティア「葉っぱさん」(地域のどなたでも、自分のできること、したいことを登録でき、それに合わせてこちらからお手伝いをお願いする) 読み聞かせ・手作りおもちゃ作成・お花の入れ替え・草むしり等 * 中高生ボランティアの受け入れ。 * 中学生の職場体験の受け入れ * 公園利用者(高齢者、小学生など)との積極的な関わり。 * 誰もが参加できるオープンなプログラム(季節の行事、コンサート等) * 高齢者と子育て世代の交流の場「昔遊びの会」 * 地域民生委員のコーラス * 孫を連れての、祖父母の利用の積極的受け入れ * 地域の人がスタッフになる。 * NPO 会員や寄付等で運営を支える * 緑ボランティアに参加して公園を整備する * 地域のお祭りに、お菓子のふるまいや、お楽しみ企画で参加 <p>もともと泉幼稚園跡地を利用するにあたり、多くの地域の方の思いや願いがあった。その方たちは、あたたかく、時に大変厳しい目で、この施設がどうなっているのかを見守り、支えようとして下さっている。</p> <p>私たちは主に親子ひろばを活用し、こうした地域の方たちとのつながりを大切に深めることにより、多くの親子を自然に地域につないでいくという役割を担っている。</p> <p>●新型コロナウイルス感染症が収束しないため、特に地域との直接的な関わりが持ちづらくなっている。計画としては上記を挙げたが、状況によっては、縮小、中止、延期、また、リモートを活用するなど臨機応変に進めていきたいと考えている。</p> <p>地域子育て応援マーク活動</p> <p>会員、理事会、スタッフが一緒に進めているボランティア活動。 子育てを見守る側がつけるマークを地域に広める。</p> <p>「いずみのひろば」を運営する中で、「赤ちゃんが泣いてしまうと肩身が狭い」「いやいや期の子どもがいるので、周囲にしつけができていないと見られているようで外出がし辛い」などと、多くの親が緊張感を持った子育てをしていることに気付いた。一方、この地域には、おおらかな目で子育てを見守っている高齢者や子育て経験者、中高生がいることも知っている。この両者を見に見える形でつなげようというコンセプトである。</p> <p>オレンジリボン活動</p> <p>オレンジリボン活動に参加。虐待防止のキャンペーンへの協力とともに、ひとりで悩まず話してほしいというメッセージを伝える。</p>
---	--	---

3 施設内容・内部体制

NO	項 目	内 容		備 考
1	開 設 時 間	小規模保育事業	7:30～19:00(基本保育時間 8:30～17:00 の中で 8 時間を個別契約) ※満 1 歳児未満は 18 時まで	基本時間内のうち 8 時間での短時間保育、それ以外は延長保育となる
		一時預かり事業	基本 8:30～17:30 早朝 7:00～8:30 (コロナ休止中) 夜間 17:30～22:00 (～19:00) 宿泊 22:00～7:00 (コロナ休止中)	利用時間は最長 6 時間 感染状況により預かり時間を緩和する予定
		ひろば事業	10:00～16:00	
2	開 設 曜 日	小規模保育事業	月、火、水、木、金	保護者会などは休日に開催することもある
		一時預かり事業	月、火、水、木、金、土	
		ひろば事業	火、水、木、金、土	
3	休 日	小規模保育事業	土、日、祝祭日、12/29～1/3	
		一時預かり事業	日、祝祭日、12/29～1/5、8/13～15	その他臨時休
		ひろば事業	日、月、祝祭日、12/29～1/5、8/13～15	その他臨時休
5	施設利用対象者	小規模保育事業	市内在住の生後 57 日目から 3 歳まで(当該年度において 4 歳に達する児童を除く)	
		一時預かり事業	市内在住の 6 ヶ月から小学 6 年生まで	利用登録が必要
		ひろば事業	主に 0 歳～未就学児の親子(妊婦含む)、孫育ての祖父母等、保護者と一緒の子ども	利用登録が必要
6	利 用 料 金	小規模保育事業	小規模認可園の短時間保育の基準による	<ul style="list-style-type: none"> ●昼食代、おやつ代、夕方の捕食代、ミルク代が含まれる ●短時間認定外の延長は 15 分 200 円 ●希望者オムツ代日額 200 円 ●前々日降園時以降の急な時間延長は割増料 100 円/15 分
		一時預かり事業	<ul style="list-style-type: none"> ●メンバー利用 入会登録料 2,000 円 早朝: 7:00～8:30 500 円/30 分 通常: 8:30～17:30 400 円/30 分 夜間: 17:30～22:00 500 円/30 分 ・0 歳児加算 100 円/30 分 ・延長(遅刻)料金 通常 250 円/15 分 早朝・夜間 300 円/15 分 ●ビジター利用 入会登録料 無料 早朝: 7:00～8:30 600 円/30 分 通常: 8:30～17:30 500 円/30 分 夜間: 17:30～22:00 600 円/30 分 ・0 歳児加算 100 円/30 分 ・延長(遅刻)料金 通常 300 円/15 分 早朝・夜間 50 円/15 分 	

			●宿泊 22:00～翌 7:00 メンバー 9,000 円 ビジター 10,800 円 ・ 0 歳時加算 1,000 円	
		ひろば事業	無料	カフェ、おむつ実費。イベント参加費、講習会参加費などには必要に応じて徴収する
7	職員配置 (資格の有無も記載)	小規模保育事業	0 歳児 3 人に保育士 1 人 1 ～ 2 歳児 6 人に保育士 1 人 保育士 2 人 ※小規模保育事業（A 型）の規定による	子どもの人数による変則シフト制
		一時預かり事業	子どもの人数に応じて、保育士または所定の研修を受けたスタッフを含む 2 人以上（0 歳児 1 対 1、1 歳児以上 子ども 1 ～ 3 人：大人 2 人以上、子ども 4 人～ 5 人：大人 3 人以上）	
		ひろば事業	ひろば専任スタッフ常時 2 名以上	（イベント時必要に応じて増員）
8	スタッフ賃金 (時給等)	すくすく泉施設長	すくすく泉施設長(常勤) 月 160 時間 249,300 円	・ 専門職手当 10,000 円
		経理事務	常勤事務員 月 160 時間 228,900 円	・ 専門職手当 10,000 円
		小規模保育事業	保育施設長(常勤 月 160 時間) 239,100 円 常勤保育士（月 160 時間） 副主任 225,800 円 リーダー 223,800 円 218,700 円 ----- 非常勤保育士・栄養士 7:30～8:30 1,232 円/時 8:30～17:30 1,141 円/時 17:30 以降 1,232 円/時 基準保育士・給食 7:30～8:30 1,124 円/時 8:30～17:30 1,041 円/時 17:30 以降 1,124 円/時	・ 専門職手当 10,000 円 ・ 給食責任者手当 8,000 円 ・ シフト確定後のキャンセルは 60%支給
		一時預かり事業	保育士有資格者 7:00～8:30 1,232 円/時 8:30～17:30 1,141 円/時 17:30～22:00 1,232 円/時 22:00～7:00 16,000 円/泊 資格無し 7:00～8:30 1,124 円/時 8:30～17:30 1,041 円/時 17:30～22:00 1,124 円/時 22:00～7:00 16,000 円/泊	・ シフト組手当(1,200 円/1 日) ・ シフト確定後のキャンセルは 60%支給

		ひろば事業	保育士有資格者 1,141 円/時 10:00～16:00 1,041 円/時	
	備考	社保／有給 処遇改善・キャリアアップ等による臨時支給		
9	年間開設予定日数	小規模保育事業	244 日（2022 年度）	
		一時預かり事業	286 日（2022 年度）	
		ひろば事業	253 日（2022 年度）	
	年間利用者数／1 日平均利用者数（見込）	小規模保育事業	10 人	
		一時預かり事業	5 人	
		ひろば事業	25 人	